

# 円福杯球技大会趣意書

円福杯球技大会実行委員会

児童養護施設円福寺愛育園は、初代園長藤本幸邦が戦後上野駅にたむろする戦災孤児を憐れんで、円福寺に連れてきて養育したことから始まりました。戦後70年を経て、円福寺愛育園に入所する児童の背景は、社会の変動により大きく変化しました。しかし、世のため人のために尽くせる人間を育てたいという、創立以来の願いは変わりません。世のため人のために尽くせる立派な人間に育て、卒園するときに自立させることが、円福寺愛育園の使命です。

この使命の実現のために、円福寺愛育園は児童に夢を持たせ、日課と行事に一生懸命取り組みさせてきました。なんでも精一杯やろう。一生懸命やろう。その時点で最高のものを創り出そう。これが円福寺愛育園の合言葉です。

昨年まで毎年7月末に、長野県児童福祉施設連盟主催の施設対抗球技大会がありました。愛育園は4月にチームを結成し、監督・コーチ・主将・責任者等を決めて、7月まで一生懸命練習しました。練習は、普段の生活を向上につなげよう。時間を守り、あいさつを交わして、道具を大切に扱い、準備や後片付けが進んでできる人間にしよう。日課に進んで取り組み、おまいりでは大きな声を出し、生活の質を高めることに向かわせよう。そう声を掛け合って頑張ってきました。その結果、地区大会や県大会では、どの施設より礼儀正しく、マナー良く、しかも上位の成績を収めてきました。

児童養護施設は、今、大きな転機に差し掛かっています。施設の養育の哲学や使命の共有、そして職員の養育力が問われています。当園は様々な事情から、この三月に長野県児童福祉施設連盟を脱退しました。それで、これまで児童の養育に大きな役割を果たしてきた球技大会が無くなってしまいました。

それに代わるものをなんとしても創りたい。その願いを込めて、「円福杯球技大会」を創設いたします。

円福杯球技大会の願いは次の通りです。

1. 円福寺愛育園の児童が、地域の児童と交流し、円福寺愛育園の児童の良いところ、地域の児童の良いところをお互いに学び合う機会とする。
2. 勝敗よりも、礼儀・あいさつ・マナー・道具の管理（準備、整理整頓、後片付け）などの試合における選手の心を重視し、参加児童の普段の生活の向上に資する大会とする。
3. 円福寺愛育園の児童と交流することにより、地域の児童も円福寺愛育園の児童もより立派になる大会とする。

皆様におかれましてはこの趣意にご賛同くださり、大会への参加とご支援を賜りますようお願い申し上げます。